

様式【学校評価資料】

池田小学校

学校経営目標	具体的計画	令和5年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1心の教育の充実 (心プロジェクト)	①思いやりの心と自己肯定感を高める。(心優しい子供) 「元氣」「やる氣」「根氣」を合言葉「お互いの頑張ったことを見つけ認め合う関係をつくる。また期間限定で「すてき」の氣に花を咲かせる取組も行い、思いやりの心を育てる。	(意識についてはアンケート結果を活用して評価する。) ○「自分には良いところがある。」 89% 90%以上である。 ○「友達を大切にしている」保護者 90% 90%以上である。	89%	B	・「元氣」「やる氣」「根氣」の葉っぱを書く活動が継続できるように声掛けをしたり、良い葉っぱを紹介したりし、友達と良いところを伝え合う意欲が継続できるようにする。 ・本年度も「すてき」の木に花をさかせる取り組みを行い、友達の良いところを見つける力をより育てる。	86%	B	・「元氣」「やる氣」「根氣」の葉っぱを書く活動が継続できるように積極的に声掛けをしたり、良い葉っぱを紹介したりし、友達と良いところを伝え合う意欲がより高まるようにする。 ・帰りの会での友達の良いところを伝え合う時間や人権週間に合わせた、期間限定の「すてき」の花をさかせる取り組みなどは、児童の自己肯定感を高めることに有効であったため、来年度以降も続けたい。	平素の様子や保護者の意見も合わせると、最終評価はAでよいのではないかと。
	②児童と周囲の人々との繋がりを豊かにする。(心優しい子供) 異学年、異校種の交流による学びやピアサポートを充実させ、上学年の自覚を育むとともに、交流することの楽しさや達成感を味わわせる。 ・幼稚園、中学校、高校との交流 ・市内の小学校との交流 ・支援学校との居住地校交流	○「学校へ行くのが楽しい。」児童 90%以上である。	86%	B	・授業や学校行事、休み時間などで異学年交流の機会を増やす。 ・児童の実態や学校行事に合わせてSEL教育のタイミングを工夫したり、専門性を持った養護教諭が関わったりすることでSEL教育を充実させ、児童がさまざまな人との交流の機会を自信をもって楽しむことができるようになる ⇒授業で使う共通の掲示物(表情カード・考える視点のカード)	89%	B	・ミニ保健指導や異学年交流の前などさまざまな機会で心カルタや怒りスイッチなどの教材を活用してSEL教育を充実させることができた。 ・全校遠足や人権集会など児童が主体性をもって計画したり活躍したりできる機会を設けたことは達成感ややりがいをもつことにつながった。活躍する高学年の姿が学校全体にも良い影響を与えた。 ・今後も児童の主体性を大事にした活動を増やし、日々の学校生活や学校行事に生き生きと取り組むことができるようにする。	自己評価は適切である。他校とも直接交流やリモート交流ができているとのこと。子供たちの意識をさらに広げて、中学校生活に繋いでほしい。
2体健やかな体の育成 (体プロジェクト)	①基本的な生活習慣を整え、気持ちの良い挨拶ができる児童を育成する。(礼儀正しい子供) 生活リズムカードや週目標等の意識づけにより習慣化を図る。	○「よい生活習慣が身についている。」児童・保護者90%以上である。 ○「家庭や地域で進んであいさつをしている。」児童・保護者・教職員90%以上である。	児童93%・保護者100%	B	・特に低学年に課題が大きく学年が上がるにつれて改善傾向にある。個別にも対応を続ける。学校保健委員会で呼びかけた。 ・決められた挨拶はよいが、ふとした瞬間の一言や臨機応変な対応の中で言うところには課題あり。 →頑張っている児童への称揚を通して伸ばしたい。	児童89% 保護者91%	A	・生活習慣に関わる質問への回答が低下していたので、メディアコントロール週間を通して児童へ指導するだけでなく、保健だよりや、学級懇談、個人懇談において保護者への啓発をこれまで以上に図る。	自己評価は適切である。個別の目標設定や課題解決に向けて努力してほしい。
	②運動することの楽しさやできるようになったことの手ごたえを感じられるようにし、健康で体を動かすことが好きな児童を育成する。 大学と連携し、走・跳の運動、水泳運動、器械運動の授業改善を図る。(大学講師、大学生の来校は年間13回を予定。) 『みんなでチャレンジランキング』や『体力アップ・マイベストチャレンジ』に取り組み、目標をもって運動できるようにする。練習の場づくりや個別指導により、記録が伸びるようにする。	○「先生は自分が努力したことを認めてくれる。」「外で遊んだり、新体カテストに向けて練習したりするなど、体力を高めようとしている。」(12月児童アンケート 肯定的回答100%) ○年間2回の新体カテストの記録が前回と比べて同じか上がった児童が80%以上である。	100% 93%	B	・『みんなでチャレンジランキング』に3種目登録をし、記録の更新に挑戦したり、挑戦回数を登録したりするよう声掛けを行う。 ・2回目の新体カテストに向けて、チャレンジランキングのワークシートを活用して、1回目からの自身の記録の伸びや達成感を味わい、互いに認め合う機会とする。また、記録の目標を立てて、当日に向けて意欲的に運動に取り組むことができるようにする。 ・陸上運動や水泳運動と同様に、器械運動においても大学と連携した授業づくりを進める。	96% 89% 85% (22/26人)	B	・技能面で上手くいかない部分から苦手意識をもつ児童が多いように感じる。そうした実態を踏まえ、大会などのような結果が明らかになるような形にこだわらず、体を動かす楽しさを味わう機会を設けることに重点を置くようにする(大学連携・事業活用を含む)。 ・チャレンジランキングや2回目の新体カテストのような、継続的な活動は前向きに取り組むことができた。今後は、単発的なイベントよりも「○○月間」「○○週間」といったような、持続性のある形で運動を推奨するようにする。	自己評価は適切である。
3確かな学力の育成 (学びプロジェクト)	①子どもが主役の授業や活動をできるだけ多く設定する。児童が「考える」「選ぶ」「決める」場を作り、それに基づいて実施し振り返り、成果と課題を明らかにする。	○「学校で学習することはおもしろい。」(12月児童アンケート 肯定的回答100%)	93%	B	・発表の場などゴールを設けることで、子ども達が主体的に学ぶ姿が見られた。今後も続けたい。 ・成功体験や相互評価により、子どもの自己肯定感を高めることが「おもしろい」と感じることに有効だった。授業を工夫していくことを続ける。⇒子どもが主体的に学ぶ様子を廊下に掲示 今後も続ける。 ・学校行事や学習指導を事前にはっきりと計画することで、見通しをもつことができるようにする。⇒キャリアパスポートの作成を通して、ついた力を振り返ることができるようにする。	96%	A	・音楽発表会や遠足などの学校行事を通して、多くの児童が達成感や自己肯定感を味わうことができた。キャリアパスポートによる振り返りは、有効であった。 ・教員は、子どもが主体的に学ぶ様子の掲示物作成を通して、自分自身の授業を客観的に見つめることができた。 ・学習発表会や人権週間などでは、子ども達が自分で考えて取り組む姿が多く見られた。対話場面も多く見られ、よい人間関係を築くことができた。	自己評価は適切である。
	②毎週火曜日と木曜日の朝学習の時間(15分間)に基礎学力定着を図る。 ○運筆練習(1年生) ○計算 ○漢字	朝学習ので取り組む漢字の書き取りや計算練習で、前回の記録と同じまたは上回ることができた児童が90%以上	計算 59% 漢字 93% (10/4まで)	B	・計算 高学年は、100マス九九からわり算50問に、変更。 ・漢字 同じ問題数を続けることにより、確実に点数が上がっている。(2~6年生) ・個のめあてを立てた児童も、立てためあてを達成。1年生は、新出漢字5問プリント同じ問題数を2・3回ずつ行っている。 ・同じ問題を繰り返し解くことが、タイムアップにつながる。(火曜日は、タイムが悪くなりがち。)	計算 84% 漢字 80.7% (1/18 時点)	B	・漢字・計算共に、一定期間の同じ問題を続けることで定着を狙った。積み重ねる学習方法が効果的であると児童も実感している。該当学年の内容を網羅するため徐々に新しい問題に変更していった。 ・個のめあてを達成できた児童は、安定してきた。 ・紙での学習の後、タブレットで個別最適化を図ることが有効である。	自己評価は適切である。ノートやタブレット等、形は様変わりしているが、いずれの形が適切かを吟味して、小学校で必ずつけておくべき力を、しっかりとつけてほしい。
4地域と域とにもあるプロジェクト (地域)	①地域の教育資源(自然・文化財・施設)や学校支援ボランティア等を活用した体験活動を充実させる。(総社を愛する子供)	○「地域の方との交流は楽しい。」児童90%以上である。	89%	B	・コロナ禍明けで徐々に交流を再開しているところである。2学期になってミソバ教室やミシンボランティアなど活動が増えてきている。今後も豪漢クリーン作戦や地域合同防災訓練などで交流をもつ予定である。 ・交流後の振り返りをしっかりと行うことで、さらに自分事としてとらえられるようにする。また、児童が動きかけをする活動を取り入れることで参画意識を高めていきたい。	96%	A	・豪漢クリーン作戦や地域合同防災訓練、拡大熟識等、地域の方との活動を予定通り行うことができた。中でも、拡大熟識では参加した5・6年生の児童が「満足した」「ためになった」といった肯定的な回答が100%であった。参画意識を感じられる感想も出てきており、来年度からの活動に繋いでいきたい。	自己評価は適切である。学校運営協議会に向けて、池田小学校として池田地区とすることができることから始めて、楽しく活動できたらと思う。
	②学校だより、学級通信、ホームページ等により、学校や児童の様子を積極的に情報発信する。	○「学校や子どもたちの様子を積極的に発信している。」保護者・教職員90%以上である。	保護者100%・教職員100%	A	・池田小学校ホームページの「学校の様子」のページを使って、「子供たちの様子」と同様に、環境、施設設備や取組の現状など様々な立場からの発信をし、地域の方により親しみを覚えていただけるようにする。	保護者100%・教職員100%	A	・池田小学校ホームページに「学校の様子」のページを作った。毎日の閲覧数が10程度ではあるが、見た感想などを寄せて下さる方もいるので、継続して更新したい。	自己評価は適切である。様々な面から、教育活動の意図を伝えると、さらに理解と連携が深まると思われる。